

くだらない話で  
笑い合える幸せ

◇友達って何だろう。毎日  
学校で会って、くだらないこ

とで笑っている時は、そんなこと考えないのに、どこかで一人になると、急に頭に浮かぶ。趣味が同じで話していて楽しかった。席が近かったから話すようになった。部活が同じだから一緒にいる。きっかけは、たぶんそのくらい単純だ。でも気付けば、その人の一言で一日が明るくなった。逆に落ち込んだりする。それって、結構すごいことじゃないかと思う。

◇でも本当は、何でも話せなくてもいいのかもしれない

い。言葉にしなくても、なんとなく隣にいられる人。それだけで、もう十分なのかもしれない。時々、ちょっとしたことでも不安になる。「もしかして嫌われたかな」。そんなことを考えて、スマートフォンを何度も見返したりする。でも次の日、普通に「おはよう」と言われるだけで、心の中でほっとしている自分がある。ああ、私はこの関係を大事にしたいんだな、と気付く。

◇友達関係は、ずっと続くとは限らない。進路も違う。

いつか、毎日会うことはなくなる。それでも、今の時間に一緒に笑っていることは、本物だと思う。大人になった時、思い出すのはきっと、テストの点数よりも、廊下で笑いをこらえたあの瞬間や、放課後の何げない会話なんだろう。

う。友達って、特別な存在というより、自分を少しだけ勇気づけてくれる人なのかもしれない。今日もまた、くだらない話で笑い合えることが、実はすごく幸せなんだと思う。

(秋山中3年・佐藤昊紀)